

## 第26号(2023年1月配信) コンテンツ

## 近藤会長からのメッセージ

1. 医薬品情報・学会ニュース 日本薬剤師会学術大会参加報告(2022年10月開催)
2. ヘルスケア業界トピックス 日本医学会博覧会プレセミナー(2023年4月開催予定) 他
3. 医療安全確認クイズ 重篤副作用疾患別対応マニュアル「無顆粒球症」
4. 各委員会からのお知らせ
5. 医療安全確認クイズの答えと解説
6. 今後のイベント



## 近藤会長からのメッセージ

新春のお慶びを申し上げます。

今年は超高齢社会(所謂2025年問題)を迎えるまであと2年となります。長引くコロナ禍による医療需要の増大とも関連し、医療は既に病院から地域への転換が図られています。基礎教育分野でも、医・歯・薬学教育共通のキャッチフレーズ「未来の社会や地域を見据えて、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」の下に、地域医療を踏まえた医療職教育のモデル・コア・カリキュラムが昨年度には3学共に改訂完了し、2024年度からの学生の受け入れを行う計画です。このカリキュラムでは、実務実習などを通し薬局薬剤師の指導能力が問われ、また、期待されるところでもありましょう。本会では既に地域における薬剤師の役割を追究してきましたが、今年は組織体制を整備し、地域における薬剤師の職能の更なる強化を目指し、国民の健康で安心・安全な生活を、薬学的視点から支援できる薬剤師の育成を更に進めて参ります。

日女薬カレントニュース第26号は、第55回日本薬剤師会学術大会参加報告として特別記念講演:「新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたものー現状と今後ー」東北医科薬科大学医学部感染症学教室特任教授の賀来 満夫氏の講演内容を報告します。ヘルスケアトピックスとしては、2023年4月に開催される日本医学会総会・博覧会の市民公開講座(動画配信中)や、セルフケアアワードの話題を提供します。

第8波新型コロナウイルス感染症の感染者数の収束が見られない中で、地域によってはインフルエンザ患者が増加し流行の危ぶまれる様子が見られております。

どうか皆様にはお元気にご活躍頂きますように。今年もよろしく願い申し上げます。

## 1. 医薬品情報・学会ニュース

### 1-1 厚生労働省ホームページより

・[薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について\(令和4年12月9日適用\) | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

・[緊急避妊に係る取組について | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

・施設紹介:対面診療が可能な医療機関一覧(令和4年11月28日時点)

・緊急避妊に関するオンライン診療について 研修を修了した医師の一覧は[こちら](#)

・「オンライン診療の適切な実施に関する指針」に基づく薬局における対応については[こちら](#)

オンライン診療に係る緊急避妊薬の調剤が対応可能な薬局及び薬剤師の一覧(令和4年10月31日現在)都道府県別にエクセルとPDF版で参照できるようになりました。

### 1-2 感染症情報

#### COVID-19第8波とインフルエンザの同時流行について

前号の村井先生の解説と合わせてご覧ください。[currentNews25HeadLine.pdf \(jyoyaku.org\)](#)

[新型コロナ・インフル同時流行対策タスクフォース | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

○[年末年始を見据えた国民の皆様への呼びかけ](#)

○[救急外来や救急車の利用に関するリーフレット\(医療ひっ迫時版\)](#)

※医療のひっ迫が懸念される状況で発出することを想定

○[救急外来や救急車の利用に関するリーフレット\(年末年始版\)](#)

### 1-3 学会参加報告 第55回日本薬剤師会学術大会(仙台市)2022年10月9, 10日

特別記念講演:「新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたものー現状と今後ー」

宮城県女性薬剤師会 理事 男澤(おとこざわ) 貴子氏

第55回日本薬剤師会学術大会「結」～地域と共に未来へ～ が10月9, 10日仙台国際センターで開催された。特別記念講演として「新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたものー現状と今後ー」と題して東北医科薬科大学医学部感染症学教室特任教授の賀来満夫先生にご講演いただいた。多数のメディアにご出演されている賀来先生を直に拝聴できるとあって会場は超満員。冒頭、お母様が薬剤師、ご弟妹、お嬢様も薬剤師とのサプライズ発言に会場からは拍手が沸き起った。

#### 1, 新型コロナウイルス感染症の現状・特徴とその問題点

2019年12月31日中国武漢市から報告された原因不明肺炎は、新たなコロナウイルス(COVID-19)が原因であることが判明した。日本では翌年の1月16日国内第1例目となる武漢旅行歴のある感染者が確認されてからは全国に急速に感染拡大した。リスクファクターである3密(密閉・密接・密集)を避けるように注意喚起もなされたが、日本全体に緊急事態宣言が発令された。デルタ株による第5波、オミクロン株BA1,BA2による第6波、そしてBA.5による感染が急拡大した第7波と、10月8日

時点において世界で6億1千万人以上の感染者数、650万人を超える死者数が報告されている。

### 1-1 感染性・伝播性の特徴

新型コロナウイルス感染症は無症状で自覚がないまま伝播させる可能性があるのが特徴である。感染経路である飛沫は5分話すだけでも約3000個ほどの飛沫と飛沫核が発生すると言われる。会話によるマイクロ飛沫の発出を防ぐために不織布のマスクが効果的であり、コロナウイルスの増える部位は鼻・口腔内であるため長時間の会食で感染リスクが高まる。無症状感染者の病原体が存在し、会話などから生じるマイクロ飛沫などが家族や学校、職場など市中感染の要因になり拡大していることが問題である。

### 1-2 相次ぐ変異株の出現

変異株の出現が早く、その出現により感染者が急増する。地域でどのような変異株が増えてきているか、どのような重症度かを把握しておくことが必要である。

### 1-3 重症化と後遺症

オミクロン株での致死率は高齢化すると(特に70歳以上)高値になる。また、オミクロン株の後遺症は多岐にわたり、中でも咳嗽、倦怠感が多く、デルタ株で多かった味覚障害は少ない。オミクロン株では治癒をしても慢性疲労症候群で、PS(performance status)6「調子のよい時は軽作業はできるが、週のうち50%以上は自宅で休息している。」、PS7「身の回りのことはでき、介護は不要であるが、通常の社会生活や軽作業は不可能である。」などコロナ後遺症での最重症時には、会社や学校に行けない状況に陥っている人が非常に多い。

## 2 今後の対応のポイントーいかに対応していくか

### 2-1 予防と重症化阻止

第8波、第9波に備え社会を守っていくには、全年齢層でワクチンの追加接種・3密回避・マスクの着用・手洗い・換気等の環境衛生管理と総合的な感染対策が必要である。

#### (1) 感染予防対策

石鹸による手洗いは肺炎などの呼吸器感染症にも50%の感染予防効果があると判明している。手洗いと不織布マスクで感染リスクは50%以上減少し、ソーシャルディスタンスでは20%ほど感染リスクを減らす。また空調管理(換気)を徹底的にすることで、マイクロ飛沫感染、空気感染のリスクを下げることができるため冬期でも換気が重要になる。

#### (2) ワクチンによる免疫力補強・維持

ワクチンを3回接種することで、感染率が約3分の1、重症化率は4分の1に減少する。また、「感染性ウイルスの量」は3回接種で有意に減少し、人にうつし難くすると言われている。ワクチン接種は全年齢層で入院患者数を大きく低下させた。追加接種により、さらに入院率が低下した。ワクチン接種は重症化予防効果がある。社会を守っていくには全年齢層でワクチンの追加接種が必要である。

### (3) 新型コロナウイルス感染症に対する経口薬

日常診療の現場において、経口抗ウイルス薬の服薬指導による薬剤師の役割は極めて大きい。

#### 2-2 ワンヘルスコンセプト

21世紀に入り動物由来の感染で重症化する感染症が増え、新型コロナウイルスは7例目となる。人・動物・環境をひとつに考える「ワンヘルス」という観点から、多領域の連携協力による対応がこれからは不可欠である。すべての壁を超えて感染症に立ち向かっていくために、新たなネオアカデミックネットワークで感染症の伝播リスクや特殊性の情報を提供し、理解を深めるリスクコミュニケーションの教育と啓発が重要である。

#### 2-3 ネットワーク“結”の重要性

感染症はすべての人が罹患しうる疾患であり、微生物が伝播するため、個人の疾患としてだけではなく社会全体の共通リスクになる。今年インフルエンザとの同時流行の可能性もある。病院・クリニックなどは治療が主体であり、予防や未病についての話はほとんどないが、薬剤師は薬局で服薬指導と共に感染予防や未病に関する啓発活動が可能である。薬剤師の果たすべき役割は極めて大きく、「薬剤師は社会の中でのインフェクションコントロール(感染防止対策)を担っている」といっても過言ではない。社会を結ぶヒューマンネットワークの構築、まさしく本学術大会テーマである“結”こそが最も効果のある最大のワクチンである。

薬剤師へ向けての期待を込めたメッセージと共に講演を締めくくった。

#### 1-4 公開シンポジウム「薬剤師のプロフェッショナリズムを考える」(scj.go.jp)(案内チラシ)

2023年1月22日 13:00~16:40 Web開催(無料) 日本学術会議・日本薬学会・医療薬学会  
以下の事前申し込みにより、1月25日~2月10日までオンデマンド視聴ができます。

[公開シンポジウム 薬剤師のプロフェッショナリズムを考える \(appmanage.cloud\)](https://appmanage.cloud)(申し込み先)

## 2. ヘルスケア業界トピックス

### 2-1 第31回日本医学会総会・博覧会 in 東京

2023年4月15~24日に開催されます(有楽町周辺、オンライン参加可能)。ホームページ上にプレセミナーや市民公開講座が公開されています。

[\(261\)【アーカイブ動画】博覧会 | プレセミナー - YouTube](#)(一緒に学ぶ乳がん)

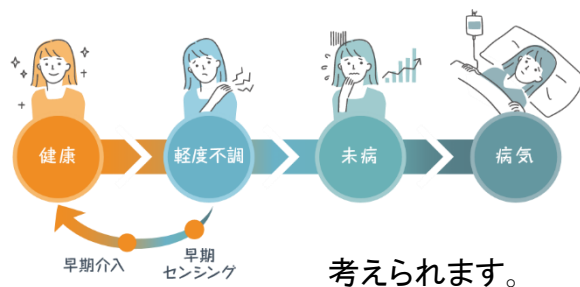
[オンライン市民公開講座 | 第31回日本医学会総会 博覧会 \(isou](#)

[kai-expo.jp\)](#)に登録することでオンライン博覧会から過去の市民公開講座を視聴することができます(無料)。



## 2-2 QOL、生産性を下げる軽度不調とは？

なんとなく体がだるい、イライラする、胃の調子が悪い……。この軽度不調とは、人々が主観的に感じる軽度な心身の不調のこと。質の悪い睡眠、自律神経の乱れ、腸内環境の乱れなどによって引き起こされると



このような健康と病気の間を示す言葉には「未病」というものもあります。この未病とは、血液検査などで異常な値がでていないものの、発病までは至っていない状態のことをさします。一方、このような検査の値は正常の範囲内であるにもかかわらず不調を感じる状態が軽度不調です。つまり、軽度不調は、健康と未病の間の状態。健康に近い分だけ、早めに気づいて食生活の乱れなどを改善すれば、再び健康を取り戻せることも軽度不調の特徴です。軽度不調の状態を科学的に分析し、食品の成分などと紐付けて食生活の改善に役立てるような研究も進められています。

健康長寿を実現する食の普及を目指す(一社)セルフケアフード協議会が2022年7月に設立されました。本協議会は「食によるヘルスケア産業創出コンソーシアム」において検討・開発を行っている「統合健康栄養食品」の民間認証「G-Plus食品」の運用を担います。カゴメ、カルビー、森永乳業、はくばくなどの企業も参画しており、今後、G-Plus食品の登場に期待し注目しています。

[おすすめレシピ - 軽度不調とは? | 一般社団法人 セルフケアフード協議会 - Self Care Food Council \(scfc.or.jp\)](https://www.scfc.or.jp/)

## 3. 医療安全確認クイズ (答えは 5. 医療安全確認クイズの答えと解説参照)

Q.重篤副作用疾患別対応マニュアル「無顆粒球症」に関する記載のうち誤りはどれか？

重篤副作用疾患別対応マニュアル「無顆粒球症」[000245257.pdf \(pmda.go.jp\)](https://www.pmda.go.jp/000245257.pdf)

1. 「突然の高熱」、「さむけ」、「のどの痛み」

といった症状が見られた場合で医薬品を服用している場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡すること。



2. 甲状腺機能亢進症の治療に用いるチアマゾールやプロピルチオウラシル、心筋梗塞など虚血性心疾患の治療の後に血栓ができるのを予防するために用いられるチクロピジン塩酸塩、炎症性腸疾患や関節リウマチの治療に用いられるサラゾスルファピリジン、統合失調症の治療に用いられるクロザピン、水虫やその他の真菌感染症治療に用いられるテルビナフィン、関節リウマチやウィルソン病の治療に用いるペニシラミンなどその他消化性潰瘍治療薬、解熱消炎鎮痛薬、抗不整脈薬などの医薬品の服用によりみられることがある。

3. 特に高齢の女性や肝臓の働きが低下している方に起こる割合が高いと言われている。

4. 無顆粒球症は、原因となる医薬品の服用開始後2～3か月以内に発症することが多いため、この期間に症状が出始めたら、放置せずに、ただちに医療機関を受診し、診察および血液検査

を受けることが重要である。

5. 大事なことは、医療関係者、患者若しくは家族等が、無顆粒球症を引き起こす可能性のある医薬品を使用していることを常に認識していることである。

#### 4. 委員会・都道府県女薬からのお知らせ

4-1 日女薬会員は、薬剤師継続学習通信教育講座を受講し、G16認定薬剤師を取得しましょう。

4-2 日本薬剤師研修センター(G01)に認定薬剤師を申請される方へ

・日本薬剤師研修センターへ認定申請される方の受講証明書の発行、詳しくは、[お知らせ 参照](#)

・研修認定単位シール(G16)と(G01)互換性についての Q & A [G16\\_220803.pdf \(jyoyaku.org\)](#)

4-3 臨床薬学 研修会 第二回開催のご案内 [PowerPoint プレゼンテーション \(jyoyaku.org\)](#)

**第一回研修を見逃してしまった方の  
申込みを受付けます**



2022(令和4)年度  
日本女性薬剤師会「臨床薬学」研修会  
婦人科ファーマシューティカルケア アドバンスト研修

**薬剤師が支えよう！「女性の健康」  
—成育医療のサイクルで薬剤師にできることを考える—**

**開催日時** 第二回 2023年3月5日(日) 12:30開場・16:45閉場  
**会場** フロントプレイス日本橋10F クオールアカデミー研修センター  
(東京都中央区日本橋二丁目14番1号)

**参加者定員** 1)小規模集合型研修者 50名  
2)ZoomウェビナーLiveオンライン研修者 150名

**受講料** テキスト付  
①会員4,000円／非会員5,000円(G16認定シール発行あり)  
②会員3,000円／非会員4,000円(G16認定シール発行なし)  
③薬学生1,500円

**G16認定単位** 2単位 (単位相互利用を希望される方には受講証明書を発行します)

**講義① 緊急避妊薬と薬剤師への期待**

厚生労働省医薬生活衛生局総務課 薬事企画官 太田 美紀先生

**講義② 米国における避妊薬, 緊急避妊薬, 中絶薬を取り巻く現状と薬剤師に期待される役割**

—Global Health の観点より— MedStar St. Mary's Hospital, USA 藤本 麻理先生

**講義③ 成育期に切れ目なく薬物療法を提供するために ～薬剤師が知るべき現場でのポイント～**

明治薬科大学 臨床薬学部門／小児医薬品評価学 教授 石川 洋一先生

## 5. 医療安全確認クイズの答えと解説

**誤りは3** 高齢の女性や肝臓の働きが低下

⇒ **正しくは、**高齢の女性や**腎臓の働きが低下**している方に起こる割合が高いと言われている。

無顆粒球症における患者側のリスク因子として、高齢、女性、腎機能低下、自己免疫疾患の合併などの場合に発症頻度が高いことが指摘されており、そのほかには明確ではないが遺伝的素因（HLA型、薬物代謝酵素の遺伝子多型）などが考えられている。投薬上のリスク因子として投与量に関しては、医薬品により異なり、例えば抗甲状腺薬では用量非依存性で、サルファ剤（サラゾスルファピリジン）では用量依存性との報告がある。一方では、同じ医薬品でも報告により用量依存性、非依存性の相反する報告もみられる。ほとんどの患者では、血液検査により無顆粒球症が指摘された時点で無症状であるか、あるいは感染症状が出た時点で血液検査を行ってはいじめて無顆粒球症であることが発見される。したがって、顆粒球が減少し始めた時点での症状は通常なく、無顆粒球症を予測することは困難である。医療者として重要な事項は、以下の項目である。

- 1) 無顆粒球症を起こす可能性のある医薬品を処方していることを認識すること
- 2) 投薬開始後2～3か月間は定期的に血液検査を実施し、白血球数の減少傾向がみられたら嚴重に推移を観察する、あるいは医薬品の服用中止を指示すること
- 3) 当該医薬品の処方にあたっては患者に無顆粒球症を起こす可能性があること、発熱、咽頭痛などの感染症状が出たら直ちに来院するよう説明すること 等

参考: 重篤副作用疾患別対応マニュアル「無顆粒球症」[000245257.pdf \(pmda.go.jp\)](https://www.pmda.go.jp/000245257.pdf)

## 6. 今後のイベント 研修会・講演会日程一覧(日付順)ページ

一般社団法人 日本女性薬剤師会 TEL:03-5244-4857 FAX: 03-5244-4077

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2丁目 2-17 喜助お茶の水ビル3F

E-mail: [jwpa@khh.biglobe.ne.jp](mailto:jwpa@khh.biglobe.ne.jp)

Web サイト

<https://www.jyoyaku.org/>